



[尾瀬プロジェクト](#)

[AKAYAプロジェクト](#)

[小笠原諸島の保全](#)

[市民参加の海岸植物群落調査](#)

[市民参加の里山保全](#)

[自然しらべ2003](#)

[NACS-J自然観察指導員](#)

[全国の自然保護活動への応援・支援](#)

[国際的な自然保護活動への参画](#)

[外来種対策・野生生物基本法への働き](#)

[かけ](#)

[辺野古海域の保全](#)

[川辺川生態系保全](#)

[プロ・ナトゥーラファンド](#)

[泡瀬干潟の保全](#)

[リアルネイチャーセミナー/キャンプ](#)

[会報『自然保護』発行](#)

[ホームページ、メルマガ、パンフレット](#)

[発行](#)

[NACS-J収支決算レポート](#)

あなたのご寄付やご支援で2003年度、NACS-Jは、
全国でこんな自然保護活動を展開しました！

尾瀬プロジェクト

尾瀬の持続的な保全とあるべき利用・管理のあり方を方向づけることを目的とし、尾瀬に関係する複数のセクターとのパートナーシップを確立し、新たな保全計画の策定を目ざしています。2003年度は至仏山で、植生の荒廃を招いてきたこれまでの公園利用とその施設の根本的な改善計画の策定のための、生物系・雪氷系調査、利用動態調査のとりまとめを行ないました。



AKAYAプロジェクト

群馬県新治村・赤谷川上流域の国有林をフィールドに、人工林から自然林地帯まで標高差1200mに及び、約1万haの森林生態系で、地域住民・NGO・行政のパートナーシップにより、生物多様性復元と持続的な地域社会づくりを進める、日本初の試みを開始しました。2003年度は共同管理の協定を締結し、研究調査、環境教育プログラムを行ないました。



小笠原諸島の保全

小笠原諸島の固有の生態系の保全と適正な利用のため「小笠原南島自然環境モニタリング調査」、「小笠原国有林南島モニタリング」を継続しています。2003年度は外来種の生息分布や微地形、植生変化について調査を行ないました。



市民参加の海岸植物群落調査

市民参加の海岸植物群落調査を全国で実施しています。2003年度は、調査の手引き（調査要項）と簡単な操作で植物の分布図を見ることが出来るホームページをつくりました。調査結果をイラスト入りで楽しく表示したページ、専門的に解析するためのデータのページのほか、ミニ海岸植物図鑑も掲載。2004年度も調査研修会を全国各地で開催しています。



市民参加の里山保全

地域住民やNGOが中心となり、専門家の協力のもとに、地域の自然を継続的に調査し、その結果を地域の自然を守るために生かすことを目指して、市民参加のモニタリング調査の調査手法の検討を進めました。またその成果を生かして、環境省が実施する「モニタリング1000」・里地分野の調査のあり方について提言しました。



自然しらべ2003

通算8回目の自然しらべは「日本全国カメさがし」と題して行ないました。全国から寄せられた約6000頭のカメ情報のうち、約6割が外来種。この結果は、外来種対策法のNACS-Jからの意見にも盛り込みました。



NACS-J自然観察指導員

講習会を17回、研修会を4回開催しました。講習会が始まって25年度目を迎え、指導員の登録は2万人を超えました。自然観察会のボランティアリーダーは、地域での自然保護活動の大きな力になっています。



全国の自然保護活動への応援・支援

全国各地から寄せられる保護、保全活動の相談、支援要請に応え、行政対応や活動展開などについてのアドバイス、広報活動の協力などを行ないました。また開催される自然保護のための活動、シンポジウム、セミナー、イベントなどを応援し、後援、協賛のほか職員や理事を講師、パネラーとして派遣協力も多数行なっています。



国際的な自然保護活動への参画

IUCN（国際自然保護連合）日本委員会の事務局・ホームページを運営しています。2003年度は南アフリカで9月に開催された第5回世界公園会議（10年に1度開催）に出席。国際生物多様性情報の収集・翻訳（環境省請け負い）ほか、国際的な自然保護情報の収集を行ない、国内の自然保護活動への情報提供を行なっています。



外来種対策・野生生物基本法への働きかけ

NACS-Jの提言をもとにした野生生物保護に関する書籍を出版し、シンポジウムを開催。この問題の普及に努めました。さらに他団体とともに、野生生物保護基本法の制定や、外来種対策法案の実効性を上げるべく、国会議員などに働きかけを行ないました。



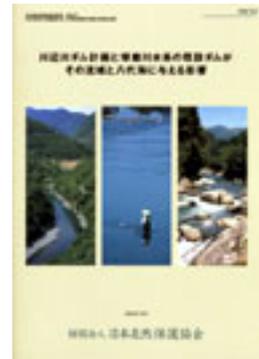
辺野古海域の保全

沖縄本島・東海岸にて、市民参加による海草調査「沖縄ジャングサウオッチ」を4回実施。普天間飛行場移設に伴うボーリング調査地点の近くで、ジュゴンのほみ跡を発見し、この結果をもとに、ボーリング調査の根本的な見直しを求めました。また、気球（サステナ主催「444ジュゴンチェーンアクションTシャツ展」からのご寄付によって購入）に乗せた自動撮影カメラで、海草藻場の空中撮影調査も実施しました。



川辺川生態系保全

熊本県の川辺川ダム建設をめぐって、アユやクマタカ等の調査結果をもとに、県民討論会に登壇し、意見を述べました。また、報告書を発行し、報告会を開催（日本科学協会支援事業）。さらに、市民・研究者による球磨川・川辺川のチスジノリなど、絶滅に瀕した藻類の調査結果を受けて、天然記念物指定等の保全を働きかけました。



プロ・ナトゥーラファンド

（財）自然保護助成基金との共同事業として、第12期（2001年度）の助成成果をまとめた報告書を発行するとともに、第13期（2002年度）の助成成果発表会を東京で開催しました。発表会には過去最高の100名以上が参加し、盛況のうちに終えることができました。また第14期助成として、国内研究助成13件、国内活動助成8件、海外助成3件に助成を実施しています。



泡瀬干潟の保全

埋め立て事業が進む沖縄本島の泡瀬干潟の自然を保全するため、干潟の自然環境の総合的な調査を実施しています。泡瀬干潟の特徴となっている海草藻場や、海藻、貝類、鳥類、底質、環境変遷など調査項目は多岐にわたります。

（WWF・日興グリーンインベスターズ助成事業）



リアルネイチャーセミナー／キャンプ

2003年度にスタートしたリアルネイチャー・シリーズは、「本物の自然保護情報」、「本物の自然体験」をテーマに開催しました。セミナーでは、自然保護活動にかかわる企業の方々、自然保護の仕事に関心の高い学生の方々が多数参加されました。またキャンプでは、AKAYAプロジェクト内の試行プログラムとして、自然保護活動の結果守られた自然の豊かさを体験できるツアーを開催しました。



会報『自然保護』発行

隔月刊行の『自然保護』では、会員読者の方々に役立つ自然保護情報をお届けすることを目的に、カラーページを増やし、コーナー展開を進めました。毎号さまざまな切り口で特集を企画し、読者の方々からも多くの反響やリクエストをいただきながら、読み応えのある誌面づくりを行なっています。



ホームページ、メルマガ、パンフレット発行

NACS-Jの活動をより広く、より早く知っていただくために、ホームページを新鮮な情報と閲覧しやすいスタイルに更新。無料登録制のメールマガジンでは、NACS-Jの活動の最前線や参加型活動の募集情報をお届けしました。また幅広い年齢層から入会者を募ったり、気軽にご寄付いただけるパンフレットも製作しました。

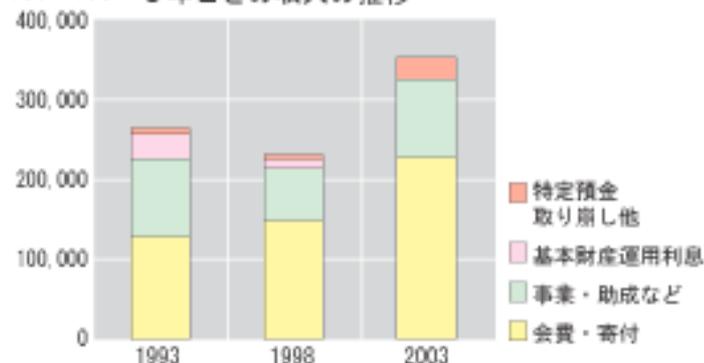


NACS-J収支決算レポート

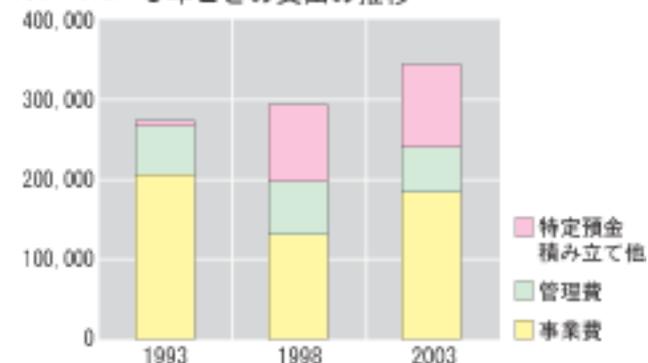
NACS-Jの収入・支出割合の推移

NACS-Jでは、年収入のおよそ6割が会費とご寄付に支えられています。それらをもとに、年支出の8割近くを自然保護活動に、残る2割を組織の運営に役立てています。1998年度からは、中長期的な事業の立案・展開や運営体制の整備・業務効率化への投資等のための資金として次期繰越金の一部を積み立て、今後の事業運営に備えるとともに、そこから年度ごとに必要な分だけ取り崩して活用しています。

(単位:千円) 5年ごとの収入の推移



(単位:千円) 5年ごとの支出の推移



2003年度においては、特定預金の積み立てに該当する指定寄付があったため、収支規模が例年より約1億円増えています。

人件費に関しては、事業部門役職員分は事業費に、管理部門役職員分は管理費に含めています。

2003年度決算と2004年度予算

2002年度はマイナスだった当期収支差額を、2003年度は収入状況に合わせた支出の管理をよりいっそう心がけたことなどにより、プラスに転換させることができました。

2004年度は、総合プロジェクトの本格稼働、それ以外の各プロジェクトの事業成果アップへの努力を続け、支持・支援のさらなる拡大を目指します。また、厳しい財政状況の中でも、収支均衡予算を維持する工夫を続けていきます。2003年度決算と2004年度予算の詳細はホームページに掲載していますので、そちらもご覧ください。

科 目	2003予算	2003決算	2004予算	1
当期収入合計	344,520	355,741	273,330	
基本財産運用収入	1,200	1,160	640	
会費・寄付金収入	231,055	231,443	140,050	2
事業収入	79,999	82,877	108,980	
助成・補助金収入	11,266	11,252	17,400	
特定預金取り崩し収入他	21,000	29,009	6,260	
当期支出合計	344,081	343,894	273,330	
総合プロジェクト事業費	20,000	18,207	2,160	3
保護研究事業費	54,492	50,387	67,730	
普及広報事業費	84,980	78,902	100,610	
受託事業費	32,709	36,710	59,800	
管理費	48,700	54,303	40,230	
特定預金積み立て支出	103,200	105,385	2,800	2

(2004年3月29日理事会にて2004年度事業計画・予算議決、2004年5月31日理事会にて2003年度事業報告・決算承認)

1 2003予算は、2004年3月3日理事会で議決された補正予算後の金額です。2003決算の収支差額は、約1100万円のプラスとなりました。この差額は次期繰越金に充当されます。

2 2003年度に、運営基盤の整備による固定費の削減のためにと1億円の指定寄付があり、整備計画が具体化されるまで特定預金に積み立てておくこととしました。

3 総合プロジェクトにかかる費用は一部が受託事業費に含まれており、2004予算は総額約5000万円となる計画です。

Copyright(c)2005 THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN,All rights reserved.